

令和 7 年度
「運営に関する計画」

大阪市立喜連東小学校
令和 8 年 2 月

学校教育目標

感じ、考え、確かに表現しようとする通じて、共に分かり合い、高め合う子どもを育てる。

1 学校運営の中期目標**現状と課題****○安全、安心で楽しい学校生活について**

令和4年度の学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、特に3・4年生では90%を超える値になった。しかし、高学年になるとこの値が低くなる傾向がある。コロナの影響も少なくなってきており、様々な学校行事を取り組むことができる状況でもある。この割合を上げる取組を今後進める必要がある。

	本校	大阪市
3年	94.3%	85.0%
4年	92.1%	82.9%
5年	78.4%	79.9%
6年	74.0%	80.0%

また、日々の学校生活においても、児童一人一人が認められ、いじめのない、人権が守られる取組を今後も続ける必要がある。

○自己肯定感、自尊感情の向上について

令和4年度の学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合を大阪市平均と比較したところ、3・4年生は大阪市平均を上回ったが、5・6年生は下回った。高学年になるほど、割合が減少する傾向にある。

	本校	大阪市
3年	92.4%	79.8%
4年	78.5%	76.3%
5年	68.7%	74.6%
6年	52.0%	74.9%

この結果から、高学年になるほど自尊感情の低下が見られ、発達段階の影響もあるとは思われるが、今後もほめることを中心として、自己肯定感を上げる取組を進めていく必要がある。

○規範意識の向上について

学校アンケートにおいて「学校のきまりを守っていますか」という質問に肯定的な回答をする児童が、どの学年でも割合が80%を超える。しかし、学力経年調査においては、ほとんどの学年が大阪市平均を下回っている。教職員全体で規律に関して共通理解を図り、よりきめ細かな指導をしていく必要がある。

○学力向上について

令和4年度の大坂市小学校学力経年調査の結果を大阪市平均と比較したところ、平均を大きく下回っていた。この傾向は例年続いている、運営の計画においても毎年課題としてあがっている。

国語科	本校(点)	大阪市(点)	算数科	本校(点)	大阪市(点)
3年	52.5	69.6	3年	56.0	70.7
4年	53.3	69.3	4年	55.2	65.4
5年	53.9	72.6	5年	45.5	60.5
6年	54.4	70.0	6年	49.1	67.3

令和4年度までの、国語科の研究において、読解力を伸ばすための様々な取組を続けていることで、児童の読解力は一定の伸びが見られた。しかし、大阪市平均より10ポイント以上差がある。今後も基礎・基本の定着を図り、自ら進んで学習に取り組む児童を育むための取組を行う必要がある。また、低位層の子どもたちは、遅刻や欠席が多かったり、家庭学習が定着していなかつたりするので、規則正しい生活を奨励し、自ら律する態度を身に着けさせる必要がある。

○体力向上について

運動遊びを十分取り入れたり、運動場での遊びを奨励したりすることで子どもたちが体力向上に取り組む意識は醸成されてきている。しかし、この数年のコロナ禍による影響で、体力の低下がみられる。その結果、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも、20m シャトルランで大阪市の平均を下回る結果になった。これから、持久走等で走る能力を上げていく必要がある。

○ I C T を活用した教育の推進について

全国学力学習状況調査において、児童が I C T 機器を学習に利用している頻度、時間共に大阪府、全国の平均を下回る状況にある。

中期目標（概ね4年以内に達成すべき目標）

【安全・安心な教育の推進】

- 年度内の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 年度内の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「自分に良いところがあると思いますか。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「学校のきまりをきちんと守っていますか。」の項目について、肯定的な回答をしている児童の割合を90%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「災害時（火事・地震）、不審者侵入時の行動の仕方を知っていますか。」の項目について肯定的な回答を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を使い、デジタル教材や家庭学習等を週数回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を65%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（①出席日数の増加② I C T の活用による本人または保護者とのつながる回数③養護教諭及び外部機関とのつながり等）

学校園の年度目標

- 年度内の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 年度内の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度と同じか減少させる。
- 年度内の校内調査において、「係活動などをがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。
- 年度内の校内調査における「学校のきまりをきちんと守っている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「災害時（火事・地震）、不審者侵入時の行動の仕方を知っている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 1 ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。

学校園の年度目標

- レディネステストなどを基に児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図るために指導に取り組み、算数科の単元テストにおいて、数と計算領域の正答率 50%未満の児童を 15%以下にする。
- 年度内の校内調査において、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。
- 体育科の研究授業の前後にアンケートを実施し、「体育科の授業が楽しい」等、肯定的な回答をする児童の割合を授業前より向上させる。
- 年度内の校内調査において、「体を動かす運動（走る、跳ぶ、投げる）をよくしている。」の項目について、肯定的な回答の割合を 75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 学習者用端末を使い、デジタル教材の使用や家庭学習等を週数回実施する。
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 70%以上にする。

学校園の年度目標

- デジタル教材を活用した学習を週数回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 60%以上にする。

【その他】

学校園の年度目標

- 年度内の校内調査において、「委員会活動や係活動、当番の仕事をがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、肯定的な回答をしている児童の割合を前年度以上にする。
- 年度内の校内調査において、「学校のいろいろな行事が好きで、学校へ行くことが楽しい。」の項目について、児童の割合を前年度以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」の項目について、「よくあてはまる（やあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。

大阪市立喜連東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (①出席日数の増加② I C T の活用による本人または保護者とのつながる回数③養護教諭及び外部機関とのつながり等) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度内の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○ 年度内の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度と同じか減少させる。 ○ 年度内の校内調査において、「係活動などをがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ○ 年度内の校内調査における「学校のきまりをきちんと守っている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。 ○ 年度内の校内調査において、「災害時（火事・地震）、不審者侵入時の行動の仕方を知っている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生活指導連絡会で校内の状況を全教職員で共通理解し、対策を講じる。また毎学期、「いじめに関するアンケート」を実施する。</p> <p>指標 いじめについてのアンケートにおける「あなたは今のクラスになって、いじめられたことはありますか。」という項目について、「ある」と答えた児童に対して聞き取りを行い、そのいじめが解決した割合を95%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生活指導連絡会で校内の不登校児童の状況を全教職員で共通理解し、対策を講じる。</p> <p>指標 不登校児童の状況を全教職員で共通理解する場を毎月1回以上設ける。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>児童の自己肯定感・自己有用感の改善に向け、委員会活動や学級での係活動などの充実を図る。</p> <p>指標 児童アンケート「委員会活動や係活動、当番の仕事をがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	B

取組内容④【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】

学校生活のきまりを守ることについて、生活目標を設定する。また、靴の履き替えや、安全な廊下、階段の歩行等について啓発し、きまりを守ろうとする意識の向上に努める。

B
指標 児童アンケートにおける「あなたは、学校のきまりをまもっていますか」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を 75% 以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】

「警備及び防災の計画」「危機管理マニュアル」を元に年間指導計画を作成し、それに沿って防災に関する授業や、災害時に備えた訓練を実施し災害から自身を守ろうとする意識の向上に努める。

A
各学級で年に一度防災に関する授業を実施し、児童アンケートにおける「災害等が起きたとき、自分の身を守るためにどうしたらよいのかを知っている。」という項目について「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎=目標達成状況 ○=取組の進捗状況 ●=課題 △=今後の取組

取組内容①

◎いじめの事案に対しては、その都度対応して、100% 解決をしている。

○いじめアンケートだけでなく、普段から全教職員で児童の状況把握に努め、気づいたときは学級担任と連携をとって対応してきた。また、学級担任を中心として全教職員がクラス内や学年をまたいだ交友関係にアンテナを張っていることで、いじめに発展する前に早期に把握、解決に尽力できている。

○毎月 1 回、「いじめ対策委員会」を実施し、各学級でいじめ事案がないかを確認してきた。

○「いじめチェックリスト」を作成および活用して、いじめの経過観察やいじめ事案に対する働きかけを継続的に行ってきました。

●言葉遣いが荒く、友達をいじったりからかったりあおったりすることに楽しみを覚えている児童がどの学年でも見受けられた。

△今後も児童からの訴えや、普段の様子との違いを見逃さないようにし、いじめを認知したら、本人、相手ともに聞き取りをして、大きな事案に発展していかないよう指導、注視を続けていく。

△いじめ事案を確認した時点で関係者全てに報告・共有を行い、学校全体で解決に向けて取り組んでいく。

△いじり、からかい、あおりを少なくできるよう、継続的に声かけを行っていく。

取組内容②

◎計画通り実施できている。

○毎月 1 回、生活指導部会を実施し、不登校傾向の児童や遅刻の多い児童、普段の様子が気になる児童についての状況を教職員で共通理解してきた。また、その児童に応じた対策なども考え、必要に応じて実践している。

●登校に対する考え方方が多様化していて、学校と家庭との考え方を一本化することが難しい。

△不登校児童が、学校に来られるように今後も引き続き、本人および保護者にアプローチを継続していく。

△安否確認の意味も含め、ミマモルメ等で学校と家庭が最低限の連絡が取り合えるように、本人および保護者に啓発していく。

△学校だけで対応するのではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、関係諸機関との連携をすすめていく。

取組内容③

- ◎アンケート結果では80%以上になっている。
- 与えられた仕事や係活動に対して、熱心に取り組む児童が多く見られた。
- 委員会活動では、責任をもって学校のために一生懸命がんばる姿がよく見られた。
- 意欲的に取り組めない児童が一定数いる。。
- 係活動や当番活動、そうじなどは、トラブルやその時の気分を理由にやらない児童が一部見受けられる。優しい児童や頑張ってくれる児童に頼ってしまうことがよくある。
- △仕事に対する責任や、意識を高めていけるような声かけをしていく。

取組内容④

- ◎93.8%と指標の75%以上となっている。
- 学校のきまりを守ってきた児童は、継続してきまりを守ることができている。
- 学校のきまりを守れていない児童も一定数いる。【服装の乱れ、染髪、ピアス、持ち物など】
- 学校のきまりに対する考え方方が多様化していて、なかなか理解と協力を得られない家庭に対しては、学校と家庭との考え方を一本化することが難しい。
- 児童の問題行動に対応する教職員の数が足りない。
- △学校のきまりを守れていない児童には、なぜきまりを守る必要があるのかを考えさせていく。
また、学校全体で共通理解を図り、今後も学級担任だけでなく全教職員での一貫した声かけや指導を継続していく、家庭とも連携していくようにする。
- △きまりを守れていない児童については、今後も継続して健康面や安全面について声かけや指導を行っていく。

取組内容⑤

- ◎95.7%と指標の85%以上となっている。
- 避難訓練を行うことで、災害が起きた時の身の守り方を理解している。
- 予告なしの避難訓練は、実践的で大変良かった。訓練を継続的に行うことで、防災意識や防犯意識は高まってきた。
- 毎回同じような避難訓練に慣れてきて、真剣に取り組めない児童も一部見られた。
- △防災訓練後にFormsでのクイズやアンケートを実施することで、児童の防災に関する知識等を数値で観測していく方法も検討していく。
- △避難訓練だけでなく、起震車の体験など、災害を身近に感じる活動や学習を取り入れることで、防災意識をより高める取組を検討していく。

大阪市立喜連東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
全市共通目標(小学校)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 1 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。 	A
学校の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ レディネステストなどを元に児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図るために指導に取り組み、算数科の単元テストにおいて、数と計算領域の正答率 50%未満の児童を 15%以下にする。 ○ 年度内の校内調査において、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。 ○ 体育科の研究授業の前後にアンケートを実施し、「体育科の授業が楽しい」等肯定的な回答をする児童の割合を授業前より向上させる。 ○ 年度内の校内調査において、「体を動かす運動（走る、跳ぶ、投げる）をよくしている。」の項目について、肯定的な回答の割合を75%以上にする。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 一斉授業、T.T 指導、習熟度別少人数指導、個別指導など、学習内容に応じて学習形態を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。	A
指標 レディネステストなどを基に児童の実態を把握しながら指導に取り組み、算数科の単元テストにおいて、数と計算領域の正答率 50%未満の児童の割合を 15%以下にする。	A
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教員が学びを楽しむ児童の育成をめざして、一回以上の研究授業を行う。	A
指標 体育の研究授業の前後にアンケートを実施し、「体育の学習は楽しいですか。」という質問に対して、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と答える児童の割合を 70%以上にする。	A
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 教員の指導力向上をめざし、校内研修（メンター研修、教科領域主任研修会等）を企画し、計画的に実施する。	A
指標 校内研修計画を作成し、計画的に年 8 回以上の研修会を実施する。	

取組内容④【基本的な方向4 健やかな体の育成】

なわとび週間やかけあし週間等を活用し、体力向上の意識を高める。

B

指標 シャトルランの記録を、年度当初の記録より平均で3回以上向上させる。

(1・2年生は50m走の記録を年度当初より向上させる。)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎=目標達成状況

○=取組の進捗状況

●=課題

△=今後の取組

取組内容①

◎児童の実態や単元の内容に合わせ、少人数での学習やT.Tでの学習などで指導に取り組むことができた。また、学級担任と習熟度別少人数担当者と連携をとって授業を進め、プリント学習で復習を繰り返して基礎基本の定着を目指した学習を行うことができた。数と計算領域の正答率50%未満の児童の割合は11%であり、15%以下になっている。

●人手不足により、学習形態を変えて取り組むことが難しい学年もある。また、遅刻てくる児童も多いため、朝学習に取り組むことができず、基礎基本が定着しにくいという課題もある。

△これからも児童同士が教え合う時間を取り入れたり、自分に合った課題を選択したりして、学習の定着を図っていく。

取組内容②

◎指標を達成することができている。授業前には指導案検討会や実技研修会を行うことにより、授業における着眼点が明確になり、より学びの深い授業を全員で考えることができた。また、授業後には教育大附属の現役教員を招いての討議会を実施することで、授業内容について幅広い意見を聞いて学ぶことができた。一つの授業に対して全教員で向き合い、より良い授業づくりを研究している。また、今年度は昨年度とは違う領域を研究単元にして取り組んだことで、体育科の指導内容を広げ深めることができた。

△教員全員で様々な授業アイデアを共有し、研究教科に限らず、他の教科にも生かしていく。

取組内容③

◎計画的に実施することができた。体育科実技研修会やICTの研修会を通して、新しい内容を知ることができ、非常に有意義であった。また、研修内容に関して各自がもっている情報を共有することで、交流を深める場ともなった。

取組内容④

◎シャトルランの記録が年度当初22.7回であったのが、36.6回に、50m走は11.37秒であったのが10.5秒となり、指標を達成することができた。

○かけあしカードなどを活用し、目標をもって楽しんで活動することができた。かけあし週間を設けることで、普段の休み時間では外へ出ることのない児童が、外に出て体を動かしていた。

●かけあし週間やなわとび週間など、期間中は意欲的に取り組んでいるが、時間が終わると日常的に外遊びを活発に行っているとは言い難い。

△児童が意欲的に取り組める週間や準備運動など、自然と体力向上につながる取り組みを考えたい。

大阪市立喜連東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を使い、デジタル教材の使用や家庭学習等を週数回実施する。 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 70%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教材を活用した学習を週数回実施する。 ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 65%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を行う。</p>	B
指標 児童が学習の際、タブレットを使用した回数を週 2 回以上にする。	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づく取組を行っていく。（時間外勤務時間を月 45 時間以下、年 360 時間以下にしていく。）</p>	B
指標 学校園における「働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 65%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎=目標達成状況 ○=取組の進捗状況 ●=課題 △=今後の取組

取組内容①

○目標値を達成できていない時もあるが、学校全体が活用していこうとする意識がある。新しいタブレットの導入により、持ち帰りを始め、利便性や性能も向上しているため、来年度以降に期待したい

△ICT 主任を中心に、普段の活用事例・知識を共有する時間や場所が必要だと感じる。

取組内容②

業務内容の見直しを指摘した評価が多い。また日々の業務についても持ち帰って自宅で遂行している教員も多い。教員にとって業務内容は 50 年前と変わってはいない。PC, ICT 関連の業務が増えたぐらいである。しかし、業務内容が多いと感じる原因是、個別対応の多さにあると推察する。50 年前は、子どもの服装、アレルギー、生活指導、友人関係、学習など教育活動における個別対応はほとんど必要がなかった。学校が例示した内容に意義を唱える保護者が非常に少なかったからである。しかし、現代は教育活動や生活指導には細かな個別対応が必要である。それぞれの家庭の価値観が多様化し、また、外国人による文化風習も千差万別である。それに伴う保護者のニーズは様々で、その要求度も年々高くなっている。保護者が納得しない場合には、膨大な時間を要する。これらの保護者のニーズを包括して学級経営をするには多大なエネルギーを必要としている。働き方改革で勤務時間の長短を議論するよりも、労働対価となる給与を上げるほうが教員の納得度は高くなると推察する。教員のなり手不足が深刻で、教員の産育休や病気休暇の代替教員が不足し

ている。各現場の学校では、日々の教育活動の人員不足を自転車操業的な体制でやりくりしている。学校に出勤している教員が、休んでいる教員の分まで業務をしなければならない場合もある。そこに手当はつかない。そこに業務手当が付与されたらこの問題は即座に解決する。

大阪市立喜連東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p><u>学校の年度目標</u></p> <p>○ 年度内の校内調査において、「学校のいろいろな行事が好きで、学校へ行くことが楽しい。」の項目について、児童の割合を前年度以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>人格形成の基礎を培うため、「自分」で「自分」を見つめる機会を設けたり、本物に触れ合う機会を設けたりして、豊かな情操を醸成する。</p> <p>指標 児童アンケート「学校へ行くことが楽しい。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を前年度以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館の開館を保証し、館内環境整備を行うことにより、子どもたちが進んで読書活動をする環境を整える。</p> <p>指標 児童アンケートで「読書は好きですか。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎=目標達成状況 ○=取組の進捗状況 ●=課題 △=今後の取組

取組内容①	子どもたちに年間を通じて様々な体験活動を取り入れた教育活動を実施してきた。しかしながら、「学校へ行くことが楽しい」と肯定的に感じている子どもは8割強で、否定的に感じている子どもが2割程度存在している。学校は学習や活動がメインであるために、これらの学習や活動が「楽しくない」と捉えている子どもが相当数いると推測する。例えば、低学年での既習の学習内容が未習熟のために高学年になるにつれ新規の内容が十分理解できないためにこの傾向は高くなるのかもしれない。しかし、基礎学力向上のためにドリル学習を増加させたとしてもこの活動自体を子どもが楽しいとは感じないだろう。自尊感情を醸成する中で、子どもたちがどんな将来の自分像を設計をしているのかを考えさせるような活動が必要ではないだろうか。将来ないりたい自分を実現するための個々の目標設定がなければ学習や活動に充実感は感じないだろう。
取組内容②	読書ウィークを通して本に親しむ子どもが増えてきた。司書による読み聞かせを楽しみにしている子どもも増えてきた。 図書に時間に、読む本が決まらずに図書室内をウロウロ徘徊する子どもが若干いる。本を読まずに、友だちとおしゃべりしたり、からかったりして遊んでいる子どもは、本の楽しさに触れられていない。こういった子どもが本に興味をもつためにはどういった働きかけ必要なのか考える必要がある。